
しろはく活動記録

古地図と城の泉 第18号

井上貫流・石川景行砲術資料目録 富原文庫蔵川越藩城制絵図目録

平成27年5月15日

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

始めに

城郭現地調査報告及び資料調査

博物館事業報告

1・富原文庫所蔵砲術書目録1・井上貫流左衛門関連文書・絵図目録

0-215は砲術関係、現所蔵品 216-281は砲術以外、元所蔵品

282-294は参考、江戸東京博物館所蔵目録

295-297は所在不明 298は井上貫流左衛門関連文書、現所蔵品

* 井上貫流左衛門文書は三百数十冊

* 所蔵砲術書は井上貫流を含め約1000冊

0) *石火矢筒 1台, 19, 5 x 48 x 21cm架台、銃身70mm直径 x 42mm口径 x 172mm長、在銘、

「文化五年蝦夷地禦防御用被仰付影筒、井上貫流象器、二挺之内」、

1) *西洋火攻神器説和解 全 1冊 奉徳廟命物氏選述 寛政6年9月井上貫流写

2) *兵祿佛狼機銃図解 全 1冊 寛政4年7月 東武台山下火砲真用隠士井上貫流誌

3) *手鑑 卷1-8 3冊 (表紙付古装丁)

4) *軍法卷 1冊 小幡勘兵衛尉一井上貫流秘伝書 (表紙付古装丁)

5) *新心流玉町櫓薬積傳 1冊 (中本)

6) *改定異風樞事集抄 井上流直謹而詳解 1冊 (横本)

7) 武衛流伝来川越之巻 初巻より5巻 全 1冊 (横本) ダブリか

8) *武衛流砲術稽古心得書 1冊 (中本)

9) *宇治田流砲術書 宇治田流砲術伝記 卷1-14巻内8・9欠 4冊、井上貫流蔵書

10) *火矢炮録玉製道具目録 1冊 寛政10年7月 武衛流四世井上貫流

11) *武衛流鉄炮小筒異風種ヶ嶋秘伝聞書覚 1冊 小筒至要集異風樞事集両巻

- 1 2) *賊舶討碎巨砲之術稿 1冊 威遠館主人誌 井上貫流直 9月26日竹田九十九殿参
- 1 3) *紅毛火術秘伝鈔 1冊 寄陽志築盈長筆記
- 1 4) *先難抄 1冊 砲薬之卷武衛流 卒隊之卷斎藤流 寛政10年斎藤師算
- 1 5) *小筒至要集抄 全 1冊 井上貫流誌 (横本)
- 1 6) *改定至要集増个條詳解 1冊 井貫流直 (横本)
- 1 7) *石火矢理盡集抄 全 1冊 斎藤十郎太夫 (横本)
- 1 8) *寛政四年、武衛流早放五拾目玉三拾目玉千打分附、阿部豊後守岩崎弥三郎 大1冊、5月14日
- 1 9) *砲術修行目録 1冊 (横本) 凶入り
- 2 0) *御物大銃之記 1冊 秘書他見無用 井上貫流 凶入り
- 2 1) *鉄砲稽古心得 1冊 井上貫流左衛門誌 威遠館主人誌
- 2 2) *火砲門答 上下2冊 井上貫流直撰述 武衛流後学火砲真用隠士井上貫流直子__著
- 2 3) *泰西海陸必要正真火器製造書 1冊
- 2 4) *鉄砲稽古之説 1冊 (横本)
- 2 5) *松明秘方 1冊
- 2 6) *大国火箭陽之卷大国火箭秘伝書 2冊 井上貫流直 凶入り (横本)
- 2 7) *鐵杖翁著 楯凶解草稿 1冊 火砲実用威遠館井上貫流左衛門誌 凶入り
- 2 8) *火砲真用 1冊 文化5年正月 武衛流伝来四世井上貫流直謹誌
- 2 9) 武衛流町打晒秘書 1冊 寛政元年3月*鳥銃火槍之卷 1冊 武衛流斎藤流
- 3 0) *徳丸原にて大筒稽古願候1件并諸入用留 1冊 文化9年4月武州西台徳丸原
- 3 1) *火砲薬説草稿 1冊 東台山下隠医 井上貫流謹誌
- 3 2) *五拾目玉三拾目玉千放分附覚 大1冊 阿部飛驒守正允臣岩崎銀之丞 明和5年
- 3 3) *山井火箭秘伝書 1冊 井上貫流直 凶入り
- 3 4) *砲家武衛氏譜 1冊 井上貫流直 (武衛氏砲術源流略伝)
- 3 5) *大砲鑄造唐銅調合 1冊 附京都大仏鐘日本砲術流派 嘉永3年12月
- 3 6) *文化7年3月 於相州鎌倉大筒火術町着覚 1冊 井上左太夫
- 3 7) *明何如浜兵録 佛狼機銃国字解草稿全 1冊 寛政癸巳正月 井上貫流謹和解之
- 3 8) 慶安3庚寅年紅毛人献上御発煩 1冊寛政7年5月 武衛流後学砲真用隠士井上貫流直凶入り 186だ
ぶり
- 3 9) *肥前国雲仙道人秘授独輪車銃凶説附車銃火箭説 1冊 凶入り横本 井上貫流誌
- 4 0) *武衛流渡辺広綱元綱譜 1冊 寛政7年8月 岩崎郷左衛門時庸
- 4 1) *武衛流石火矢理盡集抄余滴草全 1冊 寛政6年10月井貫流撰
- 4 2) 慶安3庚寅年紅毛人献上御発煩 1冊寛政7年5月 武衛流後学砲真用隠士井上貫流直凶入り、187
だぶり
- 4 3) *威遠砲和解 草稿 1冊 武備志
- 4 4) *佛狼機銃凶解 草稿 全 1冊 井上貫流解之 凶入り
- 4 5) *砲術算法之卷 1冊 凶入り
- 4 6) *武衛流砲術伝受之順 1冊 文化6年3月朔日 井上貫流誌 当流伝書之順、横本
- 4 7) *砲烙玉 1冊 文化紀元6月 威遠井上翁述
- 4 8) *異風樞事集抄 全 1冊 井上貫流誌
- 4 9) *武衛流棒火矢制作の手続き書 1冊、(横本)
- 5 0) *貴砲略銘 1冊
- 5 1) *鳥銃答問漫草 上 1冊 井貫流答 凶入り

- 52) *火砲問答 1冊 凶入り
- 53) *柔和玉火矢秘伝 1冊 南蛮奇方翻訳、雲仙道人伝来 凶入り (横本)
- 54) *武衛流鉄砲三目録口伝抄 1冊 忍渡辺家
- 55) *練兵5練銃頭之篇記聞 1冊 (横本)
- 56) *天明度御__仰写 1冊 天明3年正月書之 (横本)
- 57) *武衛流近火之卷四卷 1冊 井上貫流直判
- 58) *武衛流火術躰用之卷 坤 1冊 井上貫流直花押 (横本) 凶入り
- 59) *数火矢大矢之卷八 1冊 井上貫流直 鉄砲機鑑抄数火矢
- 60) *鉄砲機鑑抄 玉町 参 1冊 井上貫流直 鉄砲機鑑抄遠近放玉之卷
- 61) *鉄砲機鑑抄軍卷 馬上之卷1 1 1冊 渡辺助右衛門尉 凶入り (横本)
- 62) *鉄砲機鑑抄軍卷 城責船軍1 3上 1冊 渡辺助右衛門尉 凶入り (横本)
- 63) *鉄砲機鑑抄軍術之卷 1 3下 1冊 渡辺助右衛門尉 凶入り (横本)
- 64) *鉄砲機鑑抄火矢極之卷 大尾 1冊 渡辺助右衛門尉 凶入り (横本)
- 65) *鉄砲機鑑抄軍之卷、足輕鉄砲之事 1冊
- 66) *自得流火矢放玉之卷1 4卷の内 寛文10年大野佐五左衛門尉吉親 (横本)
- 67) *自得流薬込薬法之卷2 4卷の内 寛文10年大野佐五左衛門尉吉親 (横本)
- 68) *自得流規矩之卷3 4卷の内 寛文10年大野佐五左衛門尉吉親 (横本)
- 69) *中川流本書中川流石火矢口伝之書 1冊 通卷1 1卷之内 井上貫流直花押 (横本)
- 70) *中川流本書中川流末流正木流砲術之書 1冊寛政7年井上貫流直1 1卷の内 (横本)
- 71) *中川流本書中川流大小鉄砲薬櫓小町より峠迄割付山本姓中西鉄性問答
1冊 井上貫流1 1卷の内
- 72) *中川流本書中川流棒火矢砲禄之書 1冊 井上貫流直 1 1卷の内 凶入り
- 73) *中川流本書中川流鉄砲合間並長筒秘伝書 1冊 井上貫流直 1 1卷の内
- 74) *中川流本書火薬雜種集抄方 1冊 1 1卷の内
- 75) *中川流本書中川流棒火矢制作之卷 1冊 井上貫流直 1 1卷の内
- 76) *中川流本書中川流鉄砲初学不審之卷 1冊 井上貫流直 1 1卷の内
- 77) *中川流本書中川流短筒秘伝川越之卷口伝之書 1冊 井上貫流直 1 1卷の内
- 78) *中川流本書中川流短筒川越之卷 1冊 井上貫流直 1 1卷の内
- 79) *中川流本書中川流佳文之書 1冊 井上貫流直 1 1卷の内
- 80) *武衛流伝来川越之卷 1冊 初卷ヨリ五卷全 斎藤十郎太夫正房
- 81) *文化五年正月鉄砲稽古心得之事 1冊 克明堂主人
- 82) *大筒施用之拙意 1冊 御先手徳山石見守組同心御作事方勘定役出役井上貫流
- 83) *辰九月荷物数覚 1冊 タカシマ治御鉄砲方井上貫流
- 84) *文化9年堀田摂津守殿江井上左太夫差上る、異国船渡来風聞、 1冊
- 85) *為心得伺書 1冊 (横本)
- 86) 砲術古代伝来 1紙、行方不明
- 87) *天保9年酉9月鋳方棟梁松井山城書上古銅吹置割合 1冊
- 88) *文化5年諸事聞合帳2月17日 1冊 井上膳
- 89) *愚案内申上候書付 1冊 文化6年正月井上貫流在判 井上左太夫様
- 90) *火砲術ノ三心 1冊 火砲真用ノ原稿 (横本)
- 91) *平子龍問来処之書 1冊 明何汝浜所転也
- 92) *愚案内申上候書付 1冊 井上貫流

- 93) *文化度蝦夷地出張中記録 1冊 井上末五郎 文化5年正月
- 94) *勤書、1冊、御作事方勘定役出役 井上貫右衛門 御先手立花丹下組同心（履歴書）
- 95) 慶応4年7月関東鎮台日誌第11冊 版本、処分
- 96) *下書、砲術の拙意 1冊 御先手徳山石見守組同心御作事方勘定役出役井上貫流左衛門謹書
- 97) *竹田九十九方江大筒放方返書案 1冊 井上貫流左衛門直判 9月26日
- 98) 文化9年9月吉日松前門人竹田九十九方へ大筒放方返書草案、9月26日井上貫流 だぶり
- 99) 賊船討碎巨砲之術、1冊、威遠館主人誌9月井上貫流左衛門直判、行方不明
- 100) *御内意奉申上候書付、控書、1冊、井上貫流左衛門
- 101) 賊船渡来風聞二付奉願度御内意申上置候書日付草稿、1冊、 文化9年9月 井上貫流 だぶり
- 102) 賊船渡来之取沙汰有之候二付御内意申上置奉願候書付、1冊、ダブリ
- 103) *申7月15日忍領所於久下村河原火矢玉町之覚、1冊
- 104) *文化5年辰年持場所割、1冊（北方警備担当名簿）
- 105) *独輪車銃説、1冊、寛政10年3月武衛流砲術後学火砲真用隠士
- 106) *火砲図説追加短筒架法略図全、自由架之全図、井上貫流誌1冊
- 107) *甲冑制作弁序、1冊
- 108) *タカシマ聞書、1冊、辰7月9日
- 109) *砲銃稽古之説、1冊（横本）
- 110) *鉄砲稽古之説（草稿）1冊
- 111) *無題威南塘日承平〜火砲制作・火器用法等
- 112) *無題私議__方分之医師二御座候後砲術仕候二付去辰年正月26日召出井上左太夫〜
- 113) *抑此西洋巨砲並架図、武衛流後学火砲真用隠士井上貫流直謹誌
- 114) *異国船渡来之記事、三止、附警備、漂船御届書写 2冊
- 115) *即京都にて雲仙〜量銃之図
- 116) 文化9年堀田摂津守殿江井上左太夫を〜異国船渡来風聞〜井上貫流
- 117) *今蛮船日本に渡来するわ〜
- 118) *百目二百目〜
- 119) *武事小限〜
- 120) *大筒稽古之儀〜、1冊
- 121) *文化6巳年4月松前奉行村垣淡路守へ差出す砲術師範〜書付、1冊、井上左太夫手附寄力格、井上貫流左衛門
- 122) *抑賊船撃破〜
- 123) *或人答目一伝日用兵の法〜
- 124) *千放用意規矩、1冊、井貫流左衛門述
- 125) *小筒三文目五分玉より〜
- 126) *起請文前書之事、1枚、寛政3年10月、津田左兵衛広周、井上貫流殿
- 127) *誓盟之事、1枚、寛政7年1月28日、富川三郎左衛門、井上貫流殿
- 128) *起請文前書之事、1枚、寛政10年7月18日、松前家中下国和多理季船、井上貫流殿
- 129) *起請文前書之事、1枚、寛政10年7月18日、松前家中竹田小三郎忠孟、井上貫流殿
- 130) *起請文前書之事、1枚、寛政11年2月5日、池田百輔内宇佐美又市棟治、井上貫流殿
- 131) *起請文前書之事、1枚、文化5年3月7日、立花家臣石橋忠兵衛、井上貫流殿
- 132) *起請文前書之事、1枚、文化5年3月7日、加州家臣平田彦左衛門茂清、井上貫流殿
- 133) *起請文前書之事、1枚、文化6年3月、佐藤富次郎政信、井上貫流殿

- 1 3 4) *起請文前書之事、1 枚、文化7年5月、後藤郡兵衛、井上貫流殿
- 1 3 5) *起請文前書之事、1 枚、文化7年5月27日、御徒夏目次郎左衛門組穂坂松兵衛常泰、井上貫流殿
- 1 3 6) *楯秘伝巻、1 巻、明和6年8月雲仙道人吉、井上貫流殿
- 1 3 7) *当流伝書之順、1 巻、袋付
- 1 3 8) *諸流之名目次第不順、
- 1 3 9) 鉛玉等法序、1 巻、明和2年9月吉日岩崎弥三郎時起梅村実平殿 だぶり
- 1 4 0) *井上貫流左衛門文書26通
- 1 4 1) *船橋鎌倉両所打晒、武衛流依田氏、寛政元年3月写之、武衛流町打晒秘書
- 1 4 2) *文化5年正月御用向伺書控、井上貫流蝦夷高島陣屋
- 1 4 3) *籠明松之方、1 冊
- 1 4 4) *石火矢理盡集目録、集奇之巻抄、1 冊
- 1 4 5) *武衛流鉄砲秘伝、1 冊、忍渡辺家伝来之三目録青山斎藤家改定三目録
- 1 4 6) *文化5年辰正月聞合控並口上伺留 1 冊
- 1 4 7) *勤書、御勘定奉行支配御普請役井上貫流左衛門55歳、高三拾俵三人扶持
- 1 4 8) *安治川海口御普請出来木津川海口御普請出来平面之図、1 枚、午3月、安治川海口御普請成功之図、4分10間、154 x 81 cm、天保山台場詳細記載、大坂木津川口波除_位置見込図、2分10間、42 x 60 cm、海中台場記入
- 1 4 9) *西蝦夷地高嶼之略図、1 枚、石狩湾高島陣屋絵図、為高嶋御防文化5年6月朔日着岸巡見之後図之、調役木原半兵衛、御防卒長井上貫流直、差添8人、津軽家人数者越年之場所也非御防、69 x 98 cm、タカシマ持場所蝦夷惣家数四十九軒、惣人数百七十人、沿岸水深、津軽陣屋、狼煙台、木炮備場、舟備等記載
- 1 5 0) *井上末五郎膳旗 布製竹軸、27 x 38 cm、1 点
- 1 5 1) *井上外記流砲術小筒並三拾目玉筒~~安政5年正月、長谷川利長、田沢銀佐殿
- 1 5 2) *中直前、大筒構図6図
- 1 5 3) *武衛流異風百目玉切形、井上貫流左衛門 包み紙
- 1 5 4) *渡辺庄左衛門百目玉筒往来矢形、図、24 x 34 cm
- 1 5 5) *武衛流1 砲術、父井上貫流左衛門相伝、御普請役井上貫流左衛門~~
- 1 5 6) *六貫五百目、上州沼田城内在之、図、
- 1 5 7) *五十目玉切形、下谷御徒町三枚橋井上貫流
- 1 5 8) *大筒、台車図、
- 1 5 9) *井上貫流左衛門様、竹田九十九、1 冊、大砲図入り
- 1 6 0) *入子筒子母仕組之図、2 枚、普請役井上貫流左衛門
- 1 6 1) *覚、金式両之、井上貫流様
- 1 6 2) *鉄砲町打之人~~、大砲図6
- 1 6 3) *法地孕前、横紙1 枚
- 1 6 4) *大砲切形、3 点、文化7年3月武衛流四世井上貫流左衛門袋、文化2年竹田九十九殿袋、
- 1 6 5) *武衛流後学火砲真図隠士、井上貫流直謹誌、1 枚
- 1 6 6) *大筒図、百目玉巢中五寸
- 1 6 7) *奉納絵馬写、奉戯偶言、武衛流説明、武陽隠士敬白
- 1 6 8) *伝馬町より~~出府、井上貫流蝦夷地御用御貸用文書
- 1 6 9) *図、木梓
- 1 7 0) *算法文書、平方面立方面
- 1 7 1) *鉄杖翁行状、鉄杖翁井上直子温父自述

- 172) *鉄砲中リ付、鉄砲立掛け台図
- 173) *鉄砲秘伝書、16 x 504 cm、江戸初期古写折帳、図多数
- 174) *寛政11年6月16日異風筒百放、角八寸、成績表、甲斐庄長三郎
- 175) *打小屋大砲飛距離一覽図、松平下総守内____十郎分、
- 176) *追加、末五郎儀～～、卯十月八日井上貫流直、家内中、親類中
- 177) *量銃器十二分度1点、大筒切形2点
- 178) *1尺8寸玉文書、2通
- 179) *武衛流秘事、1寸筒火矢切形、部品等3点
- 180) *砲術上覽吹上御座内角場絵図、寛政3年5月、内題吹上御庭上覽御場所之図、亥5月19日阿部豊後
守家来武衛流岡崎江右門門弟谷主膳
- 181) *荻野流鉄砲打順、寛政4年5月9日江戸表、的図入
- 182) *九数火器独輪車陣法、図
- 183) *武衛流鉄砲目当放分附、未7月20日、御書院番伏見右京
- 184) *長州征伐絵図、広島から岩国、慶応2年6月6日、96 x 33 cm
- 185) *慶安三年紅毛人献上御発煩、横長本1冊、寛政7年5月武衛流後学炮真用隠士井上貫流直謹誌花押、
御鉄砲掛御徒目付石川三太夫より密借、不許他見、大坂御鉄砲奉行署名大筒絵図15枚
- 186) *慶安三年紅毛人献上御発煩、横長本1冊、寛政7年5月武衛流後学炮真用隠士井上貫流直謹誌、御鉄
砲掛御徒目付石川三太夫より密借、不許他見、大坂御鉄砲奉行署名大筒絵図15枚、花押がないため186の
下書きと思われる。
- 187) *武衛流百目玉軽筒台合物注文、巳6月武衛流四世井上貫流左衛門
- 188) *大筒切形雌型、寸志之～～
- 189) *井上貫流左衛門様西山平十郎、書信、8月13日
- 190) *大砲図、27 x 42 cm
- 191) *大砲切形雌型、渋紙製3枚
- 192) *著述ノ草稿浄書未見、砲術書、3枚
- 193) *於松前製作五拾目玉狭間筒野台之、1枚
- 194) *口上之覚、書信、6月15日、井上貫流
- 195) *六匁玉操打之____、5月、井上左太夫手附井上貫流
- 196) *証章、綾織鞆眼、一具、去る文化5辰年春外寇防禦～～、文化10年8月16日井上末五郎、宛先欠
- 197) *天保六未年阿蘭陀持渡青銅銃ホーウイツスル筒正寸法絵図、134 x 54 cm、井上貫流文庫印、袋、
鉄砲図並切形雪洞切形、嘉永元かり渡し
- 198) *天保三辰年阿蘭陀持渡青銅砲モルチール正寸法絵図、54 x 85 cm、井上貫流文庫印
- 199) *遠矢三拾目玉ヨリ三百目玉迄形容如此、棒火矢絵図、梅村実平、14 x 81 cm
- 200) *文化5年8月15日長崎江エケレス船渡来付其節之書状御届書
- 201) *蝦夷地高嶋小屋之図、28 x 40 cm
- 202) *井上貫流様、江戸絵図袋
- 203) *蝦夷地御備場大筒野図、文化5年蝦夷タカシマ備砲図、大砲開口部拓本
- 204) *タカシマ禦防禦備、
- 205) *大砲切形雌型、無名
- 206) *大砲切形、右者後藤三右衛門役所江相渡申候、
- 207) *大砲切形、三百目玉短筒惣長サ九寸七分
- 208) *大砲切形、蘇鉄之間御張付其外御絵師渡物、

- 209) *前々之書置不要
- 210) *紅葉山下御寶庫霞御張筒、28 x 120 cm、大砲絵巻
- 211) *大砲絵図、21 x 30 cm
- 212) *大砲切形、後部分欠、47 cm断簡
- 213) *大筒打ち方絵図、3図
- 214) *大筒切形、木部火鉄付切形、仕掛け5点切形、
- 215) *松平老岐守支配石原新三郎書状、長巻き

以上は2006年1月現在しろはく 古地図と城の博物館 富原文庫所蔵品

- 216) 江戸昌平坂学問所惣絵図、160 x 208 cm
- 217) 深川割図
- 218) 尾張国絵図
- 219) 三河国絵図
- 220) 蝦夷島奇観、上中下3冊、内藤知直写、彩色精密写本、明治26年井上氏蔵書
- 221) 東西蝦夷地総図、1舗、井上貫流製之、118 x 108 cm、彩色図2分1里、東地天明5・6年分野之、西地寛政4年分野之、文化5年7月吉日製之井上貫流署名袋入り
- 222) 西蝦夷地高嶼澗内見渡之図、1舗、55 x 40 cm、彩色図、文化5年7月、於タカシマ図之、井上貫流直、花押、署名 文化5年7月吉日製之井上貫流署名袋入り
- 223) 江指市中之図、1舗、54 x 40 cm、彩色図、内題松前領江指市中之図、辰7月蝦夷地於高島図之、井上直花押署名 文化5年7月吉日製之井上貫流署名袋入り
- 224) 文化2年12月西蝦夷地行程、御目付方控、1冊
- 225) 高志摩從松前至行程記、井飛蚊、1冊
- 226) 文化5年從松前販府道中記、井上氏、1冊
- 227) 辰（文化5年）3月御用向蝦夷日記、1冊
- 228) 旅中并蝦夷代入用覚控、井上貫流、1冊
- 229) 文化元年9月6日ヲロシア船来航長崎江渡来之次第、通詞1巻
- 230) ヲロシア船之説、文化元年9月10日阿蘭陀通詞、1冊
- 231) 文化5年秋、露西亜蝦夷之記統、1冊
- 232) 文化8年參政堀田撰津守殿江差上候書面、井上貫流、1冊
- 233) 仙台会津南部津輕四家江松前奉行所より申達候書付控、1冊
- 234) 享和漂流人從露西亜至日本海路談、1冊
- 235) 賊船打沈メノ方略、1冊
- 236) 文化9年10月18日威遠館主人誌、1冊
- 237) 露西亜開業記、ヘシケレーヲ翻譯、1冊
- 238) 御内意申上達候書付、井上貫流、文化9年10月、1冊
- 239) 高田弁五郎親類書、1通
- 240) 4月13日東蝦夷地エトロフ～書状1通
- 241) 寛政4年10月13日御届有之、此度東蝦夷～松前志摩守書状1通
- 242) 6月2日松前志摩守書状、1通
- 243) 松前騒動之一件、寛政元年5月文書、同文2通
- 244) 利根川図志抄
- 245) 房総紀行
- 246) 井上貫流收書写本、29点30冊

- 247) 従高嶋至松前行程、折帳1冊、海岸図入り道中記
- 248) 辰4月、松前辺留控
- 249) 従江戸三馬屋迄道中記
- 250) 越後新発田会津通江戸迄道中記
- 251) 御徒目付藤本徳三郎蝦夷代御用～宇都宮より日光迄先触
- 252) 文化5年御__文控帳2月
- 253) 御普請役発端
- 254) 関東筋川々定式御普請目論見御用留文久年9月井上
- 255) 在々御普請之儀二付仰渡書留、井上直義
- 256) 甲州巨摩郡西八幡村玉川村用水配御用留慶応3年井上直義（厚冊）
- 257) 防河大要書 彩色図入り
- 258) 鎧着初之伝、全、正徳2年
- 259) 名甲図鑑、松宮観山集、全、全頁図入り
- 260) 十__香記録、図入り
- 261) 古作御當図、井上
- 262) 甲冑温知録、卷之中、図入り
- 263) 古今甲冑威毛観、全
- 264) 武具之記、図入り
- 265) 作形類當図、全、図入り
- 266) 日光拝礼参詣之控2冊、寛政4年
- 267) 鐙評判、岩井六左衛門
- 268) 異賊討伐論
- 269) 切腹之法式、図入り
- 270) 戒衣着用弁略
- 271) 鉄杖翁遺稿、
- 272) 天明7年田沼主殿、遠州相良城地～
- 273) 明和酉年上州武州百姓騒動風聞書
- 274) 鐙兜並小道具注文、武卿草稿
- 275) 寛政9年阿蘭陀船風説書
- 276) 享保覚書
- 277) 片桐石見守殿風炉手引集
- 278) 老人雑話全
- 279) 徂徠先生答問録完
- 280) 天明度奇説
- 281) その他 42冊

以上216—281はしろはく 古地図と城の博物館 富原文庫、元所蔵品

以下は282—294は江戸東京博物館所蔵と判明、

史料ナンバー94203769—94204037目録刊行予定あり

295—297は所在不明、298は富原文庫所蔵井上貫流左衛門関連だが、貫流文書に有らず

- 282) 蝦夷地タカシマ御用旗、1枚
- 283) 最上徳内書状井上貫流宛、1通
- 284) 井上貫流松前師範状況申上書案文、1通

- 285) 文化5・6年蝦夷高島日記、10冊
 - 286) 文化5・6年於高島・イ子ツフ角場大筒稽古分附帳・練銃頭口占、3冊
 - 287) 文化5・6年往路及帰府道中記・財__之覚、4冊
 - 288) 文化5年蝦夷地御用二付金銀渡覚帳、1冊
 - 289) 文化6年5月松前御用向控、1冊
 - 290) 文化6年蝦夷地紀行草稿・夷地開発考案、2冊
 - 291) 他蝦夷関係、約10点
 - 292) 日記、文化9～大正2年109冊
 - 293) 御普請関係、14点
 - 294) その他、約30点
 - 295) 徳丸原大筒稽古の先触他、7通、井上貫流左衛門実印、稽古願、日割
 - 296) 蝦夷地関係文書、25通、井上貫流左衛門、文化4・5年、南部大膳太夫異国船異国人上陸届
控、海岸山岳巡見口上申上候覚、蝦夷地手当銀の事
 - 297) 鉄砲初学抄、大1冊、文化11年3月井上左太夫正清、天保15年3月写
 - 298) *参考資料、御目見、毛利左金太四男毛利左吉、習得技能貫流銃術記入等3通
- 以上

2・富原文庫所蔵砲術資料目録Ⅱ 石川家武術文書目録

2013年、一括して入手した大量の武家文書であるが、巻子は紙の糊が劣化して、バラバラであり、虫損もあって、なかなか整理できなかつた。このほどようやく2014年盆を利用して、補修と整理、目録作成が出来た。砲術関連45点は付番を付けた。文書総数は180点であった。石川家関連古文書、主として葬祭関係が108点ある。砲術以外の資料については放出予定である。

砲術

- 1・覚書 折丁 18 x 204 cm
- 2・下書鉄砲書□横本9丁
- 3・上 石川景行頓首拝 三百日本尺探町文政7年1824年二通・五百日本尺探町三通・百目玉本尺探町一通
- 4・御薬法之書 元治元年10月景道写之 15 x 172 cm 封紙付
- 5・此息合薬並三日^家中用申薬方は松平輝綱様石川景隆江御相伝之大切——他見他言不可有 14 x 63 cm
イキあいの方也 15 x 24 cm □付薬 明暦四年14 x 27 cm 以上三通封紙入り
- 6・三□備覚 村ごとの大砲備、詳細、数量記入
- 7・御流儀大炮秘伝抄 不許他見 石川景行(袋題) 探法大筒秘伝抄石川景行(内題) 横本27丁
- 8・百射分帳 文化元年甲子五月 横本九丁 文化五年辰年一玉射分附 日別試射数と砲術氏名
- 9・亥八月分 13丁 文化2年・文化3年・文化4年・文化5年 砲術試射記録秘弾数氏名
- 10・鳥銃之術 安永3年4月吉日 13丁付図1枚 出合越之事等 出合い図アリ、弾丸の降下線と銃身との
的の交点を図示。別図も同様直射大秘事之
- 11・打ノ前書之 石川 横本10丁
- 12・銃砲秘伝抄石川景行 横本53丁 文政元年—2年 砲術試射記録 鉄砲長さ弾サイズ飛距離を記録
- 13・探法玉覚数 13 x 47 cm
- 14・火箭発薬 14 x 35 cm
- 15・1百目玉炮三寸四分 酉六月二三日石川景行 15 x 21 cm
- 16・五^分 14 x 55 cm
- 17・^西井筒 6 x 81 cm
- 18・石・松 16 x 43 cm

- 19・松三分式□玉 午八月 19 x 25 cm
- 20・赤薬之秘伝 元和七年・元和五年石川内記宛 23 x 29 cm
- 21・良実赤薬 元和八年石川内記宛 16 x 74 cm
- 22・三刃三卜 12 x 32 cm 両面
- 23-35・鉄砲関係書類
- 36・本尺百目玉筒 文化13年8月松井主馬外 16 x 46 cm
- 37・日置流火矢之次第 嘉永5年 石川作之丞宛 18 x 160 cm 卷子水晶軸秘伝書 表紙欠
- 38・眇瞻集 眇瞻集第二 天明3年石川源太郎宛 文政6年石川作之丞 卷子絵入花押朱印秘伝書
18 x 477 cm
- 39・画図之巻 画図之巻第三 天明3年石川源太郎宛 文政4年石川作之丞 卷子絵入花押朱印秘伝書
18 x 295 cm 筒乱・口薬入・尺8号各絵図
・筒形之事玉毎の鉄砲仕様・産寸方之事・鉄砲張地金之事
- 40・虚霊之巻 天明3年石川源太郎宛 文政4年石川作之丞 18 x 332 cm 稻富流小目当鉄砲之七巻
- 41・薬法之巻 薬法之巻第四 天明3年石川源太郎宛 文政6年石川作之丞 卷子花押朱印秘伝書
相州夢想薬外70種の塩消・硫黄・灰配合記入 18 x 600 cm
- 42・数視之巻 数視之巻第五 天明3年石川源太郎宛 文政6年石川作之丞 卷子絵入花押朱印秘伝書
18 x 415 cm 町薬櫓積り・台放会之事・同越を知る事・的絵図二枚出合絵図
- 43・歌之巻 百首之歌 天明3年石川源太郎宛 文政6年石川作之丞 卷子花押朱印秘伝書
18 x 302 cm
- 44・題箋欠 南蛮一流之鉄砲—— 正保三年三月吉辰日 佐川半兵衛光次花押状朱印堀加兵衛宛
18 x 81 cm 表紙傷み
- 45・目録 天明3年石川源太郎宛 文政4年石川作之丞 卷子花押朱印秘伝書 18 x 200 cm
1-5巻56条

陣立図

- 陣立図 24 x 324 cm 陣場奉行・御本陣・御旗奉行・御槍奉行・御家老・大砲奉行以下数100名記入
- 陣立図 24 x 264 cm 陣場奉行・郡奉行・御本陣・御旗奉行・御槍奉行・御家老・大砲奉行以下数100名記入
- 陣立図 28 x 150 cm 軍奉行・普請奉行・御旗奉行・長柄奉行・楯奉行以下数10名記入
備立五段之瀬越 八丁

甲冑

- 甲冑御備立意見 嘉永7甲寅年1854年6月 6丁
- 甲冑着之次第 19 x 39 cm
- 具足着用順書覚 16 x 39 cm

槍術

- 免状 宝蔵院流十文字鎌兵法 18 x 595 cm 文政7年1824年7月書之 道具巻 図巻
道具巻 図巻 18 x 566 cm 文政6年1823年秘伝書朱印

劍術

- (無敵流平法) 16 x 267 cm 丸に心図アリ 文政5年1822年
- 無敵流平法 17 x 430 cm 図4図 寛政7年1795年 石川新九郎宛
- 無敵流劍術別伝目録 折丁 16 x 180 cm 弘化3年1846年 松井金三郎宛
- 無敵流劍術目録 無敵流平法 17 x 421 cm 弘化3年1846年 松井金三郎宛 図多数
- 無敵流劍術指南心得 天保15年1844年 石川景通 横本8丁

伝授劍 寛政7年1795年 石川新九郎宛 16 x 336 cm 図巻 虫損

五寸切 15 x 302 cm 貞享3年1686年新井彦左衛門宛

弓術

射形歌之卷百十九 折丁 嘉永五年1852年 石川三四郎・作之丞宛 22 x 630 cm

的場の次第 17 x 390 cmただし後半250 cm未記入

日置流弓之目録 嘉永五年1852年 石川三四郎・作之丞宛 17 x 305 cm

印歌之巻 文久元年1861年 石川作之丞 20 x 450 cm

弓古文書 横本20丁 独弓帯佩・鞭・弓矢求羽積り・的矢羽根巾等 石川景行写

的集之巻一龍之的 一龍の的四季次第 宝暦9年1759年 川野文左衛門宛 16 x 185 cm 虫損

当流之目明一流伝授 寛永3年1626年 石川作内宛 27 x 86 cm

鳴弦臺目 文政5年1822年 石川作之丞宛 19 x 185 cm 図入り

鳴弦臺目 文政5年1822年 石川作之丞宛 19 x 172 cm 図入り

その他

御旗本御両敬方 横本 11丁 肉筆赤字入り

慶応3年10月上浣1867年 封内布告 第1套 不伝他邦 生産局之事・皆養院之事・與偕園之事 木版5枚

その他家古文書108点

3・富原文庫蔵川越藩城制絵図目録

凡例 1)本図の基本寸法は高さ40cm 幅の巻紙で、1図之幅42cm を基本とし、解説文部分があるものは幅が広く、84cm まであります。(1のみ表紙つき冊子、他は巻物ですが、保存の関係で、1図毎40X42cm の折帳としています。)

2)城郭図数は345図(NO は347、内1図関が原図残欠、1図は無地)。

3)活字化は作成履歴のみ、文中、兵法技術用語、朱書き校正は省略。

4)漢文体、及び、旧字であるため、ワードに存在しない字は近似文字を 使用、その場合は城郭のように枠で囲みました。

5)朱、薄墨以外の着彩は(手彩)と表示しました。

6)最初の数字は基本ナンバーです、引き合いは大文字と小ナンバーで。

7)本目録作成目的は兵法技術の解明ではありません。川越藩における城制絵図作成履歴、つまり、兵法の伝承ルートの解明にあります。

8)年号は和暦の後に西暦を()内に付与し、1700年代は太字下線、1850年以降は下線としました。(題字除く)

1 嘉永二巳酉年(1849)九月吉日編之

『古先生並高弟衆城制』

武州入間郡三芳野之里川越藩中之臣士 栗間金八源友之

1図1 田中先生 木村政貞追善三回忌之節 之繩 嘉永二巳酉年(1849)七月十六日

2図2 常住齋先生繩

3図3 常住齋先生繩(手彩)

4図4 文化八辛未年(1811)八月廿六日 土州藩岡本十郎左衛門地形 応需而図 井山

双柯

5図5 文政二年巳卯(1819)三月十八日於東都 本荘 甘繩先生之席上謹図 井山数之

助源双柯

6図6 戊辰(1809)六月三日 井山双柯

7～16 図 7～16

17 図 17 文政二年巳卯（1819）五月廿九日師祖 北条姓氏長公一百五十回之忌辰也
依謹一城図奉備 尊靈

安井珍平政章 稽首百拜

18 図 18 維時 天保二年歲舍辛卯（1831）秋七月二十有九日 南街先生小祥忌辰也今
師木村先生與門下為

南街先生之靈不肖

祭 幸而得連其末席制一城以獻 田中端八橋真武 稽首百拜

19 図 19 天保三壬辰年（1832）七月廿九日 井双柯先生三回忌也因制一城以備于尊靈
前矣

大藤晋助勝慈再拜稽首

20 図 20 嘉永二年（1849）歲舍巳酉九月廿有七日

流川松本先生值五十回忌辰與學友制拙紙図一員而以

備于 在天靈前 後學 田中端八橋真武

21～32 図 21～32

所謂雖有嘉肴不食不知其旨雖有至道不學不知其善宜哉 不肖 淺學而雖知其善未知至善之道是以
城制拙而恐入 君子之盾矣蓋城制巧則治世者 治四海亂世者平天下而其本有於道行豈何徒賴甲兵
金湯事術之巧哉 于時

天保七年（1836）歲舍丙甲四月中旬 川越藩中田中端八橋真武再拜稽首

2 『栗間金八繩（仮名）巻物』（1851年）

33 図 1 嘉永四年辛亥（1851）歲三月 栗間金八源友道 十八日 （手彩）

34 図 2 （1851）十八日 （手彩）

35 図 3 （1851）同日 （手彩）

36 図 4 嘉永四年（1851）三月十八日 （手彩）

37 図 5 （1851）同日 （手彩）

38 図 6 亥歲（1851）三月廿日 （手彩）

39 図 7 （1851）同廿日 （手彩）

40 図 8 亥歲（1851）三月廿日 （手彩）

41 図 9 亥歲（1851）三月廿一日 （手彩）

42 図 10 亥歲（1851）三月十八日 （手彩）

見事二仰出 來被求居御研精之御修力相頭居相 奉候（朱校正）

3 『栗間金八繩（仮名）バラ』

43 図 1 四月十二日制之 栗間金八

44 図 2 四月十二日制之 栗間金八

45～54 図 3～12 （手彩）

55 図 13 嘉永四年辛亥（1851）歲正月日制焉 其一 栗間金八源友道 （手彩）

56 図 14 （1851）其二 （手彩）

57 図 15 嘉永四年辛亥（1851）正月二日初制 栗間金八

58 図 16 文久二年壬戌（1862）三月七日因值 厚齋井山先生三十三回忌辰也謹而図
拙哉以奉備祭壇之下在天之靈願受焉 栗間島五衛門友道

59 図 17 文久二年壬戌（1862）春三月謹而図焉 川越藩栗間島五衛門友道

60 図 18 癸亥（1863）秋九月廿九日 栗間友道図焉

- 6 1 図 1 9 癸亥 (1863) 秋九月朔 栗間友道
- 6 2 図 2 0 安政五年戊午 (1858) 正月初寿 栗間友道 (手彩)
- 6 3 図 2 1 嘉永三年 (1850) 六月 源栗間友道 (手彩)
- 6 4 図 2 2 嘉永三年 (1850) 六月制之 何レ茂見事御出来成 うしむらく者 御城制 (朱校正) (手彩)
- 6 5 図 2 3 嘉永四年 (1851) 三月廿六日制之 栗間金八友道 (手彩)
- 6 6 図 2 4 (1851) 同日 (手彩)
- 6 7 図 2 5 嘉永三年庚戌 (1850) 歳四月二十二日 和田氏之稽古場二において制之 栗田金八
- 6 8 図 2 6 (1850) 同日制之 栗田友之
- 6 9 図 2 7 (1850) 四月二日 栗間友之 (手彩)
- 7 0 図 2 8 (1850) 四月二日 制之 栗田金八 (手彩)
- 7 1 図 2 9 破れ (手彩)
- 7 2 図 3 0 同 (手彩)
- 7 3 図 3 1 (手彩)
- 7 4 図 3 2 十日 (手彩)
- 7 5 図 3 3 (手彩)
- 7 6 図 3 4 自喜多武受之 栗間治 (関が原合戦図の切れ端、松尾山)

4 『縄張図』

- 7 7 図 1 広瀬実常縄張 元禄十七年甲申 (1704) 二月二十四日
- 7 8 図 2 寶永三年丙戌 (1706) 正月十八日 広瀬実常縄
- 7 9 図 3 甘繩先生侍講退朝于時微善仮寂瞬息之間夢高祖栢陽先生指示山川巖險之地有清廟且可其業成而百愉色云覚後乃図其地令君羊弟子繩焉余亦設一繩以乞示教意先生平素篤学夙夜不懈寤寐思之神惑其心志而来格与語曰思之而不通神将通之豈不信哉
寛政丙辰 (1806) 冬十二月 河肥拾遺直恒制之 (手彩)
- 8 0 図 4 山名主膳殿縄
- 8 1 図 5 天明二壬寅 (1782) 正月元日 山名禅靈義安
- 8 2 図 6 巳未 (1800) 八月十八日因地形而 安井近司久道図之
- 8 3 図 7 松本先生縄
- 8 4 図 8 此縄変化二相流可申哉之段
國雄公入尊覽処蔓二実之生
ル意二叶道屋鋪能相分矢故勝
負合面白出来城之旨御意有之
則写差上ル 松本先生縄
- 8 5 図 9 此縄甚宣出来写差上候 國雄公被仰開則写差上 松本先生縄
- 8 6 図 1 0 文政改元 (1818) 歳次戊寅秋七月八日奉命 井山数之助双柯謹図
- 8 7 図 1 1 福嶋定春君地形 文政二年巳卯 (1819) 三月十八日於東都本荘
甘繩大先生之席上謹図 井山数之助源双柯
- 8 8 図 1 2 天明三年癸卯 (1783) 正月 松本四郎兵衛
- 8 9 図 1 3 流川松本先生者兵家之先進也 柯也
曾與同志之士遊乎其門親受其教

誨今茲享和壬戌（1802）秋九月二十七日

值先生再祥之忌辰前之一日久道

安井先生自布ル筵テ其亭

以祭之且微弟子若干輩以

與其祭欲無以忘故先生德

也亦乃與同志之士拜手稽首

90 図14 此外郭者松平泉州乘與公所図

而山名豊峯先生応此公之需所

制此外郭而設城柯也唯倣松宮

城制在而松宮俊乃亦唯因図而

於其外郭有大同小異氏所図而

制此図然而外郭之図全用泉州

公所図云 文政元年戊寅（1818）七月十八日 井山数之助双柯 （手彩）

91 図15 文化十二年乙亥（1815）正月十六日制 井山数之助源双柯

92 図16 文政六年癸未（1823）七月十七日于于城先醒依大祥忌 広瀬実勝伝師命則存

尊靈之地形依之謹敬而図制之 土佐 井上覚太夫直弘

93 図17 （1823）同年同月同日 井上直弘

94 図18 文政二年巳卯（1819）夏五月二十有九日 鳥羽為介藤原惟文謹制

95 図19 元祖大先師百五十回御忌為追福 制一城而奉 尊靈前 井口五平覆圭

96 図20 倣故広瀬氏実常先生胡芦形之図

97 図21 文化七年庚午（1810）四月二十九日因地形図 井山数之助源双柯

98 図22 丁丑秣 （1817）九月十又九日 井山数之助源双柯繩

99 図23 此城肥前佐賀侯藩中諫早豊前家土東利助所望二付清書遣

浙江形勢南北有嚴州処州兩都

文化丁丑（1817）春正月丁巳因鳥羽君地形 井山数之助双柯制焉

100 図24 文化十五年戊寅（1818）四月二日 根村源兵衛業永繩

101 図25 文化十二年乙亥（1815）正月十六日倣古人之制而

作八陣図 井山数之助源双柯

102 図26 文政六年（1823）六月十八日図制之 伊藤鉄之丞藤原広路（花押）

時癸未（1823）七月十八日

于城尊靈三回之祭忌従当福島先生賜 甘繩先醒之地形而可奉獻城図蒙

貴命依而薰沐再拜 稽首画拙城繩奉備 尊靈之祭具下

103 図27 文政六とせという年（1823）の五月十日 より八日ハかしこくも学の御師

（以下長文略）

土佐国人 藤原広路（花押）

104 図28 寛政八辰（1796）四月十三日松宮定俊因地形勢之四象常蛇首中尾

戦地十五地五段之意即席制焉

須藤市郎兵衛利久繩

105 図29 斎藤武右衛門定友繩

106 図30 文政二年巳卯（1819）五月廿九日因 先師一百五十年奉備 安井珍平政章

制

107 図31 長俊

1 0 8 図 3 2 寛政十三年辛酉（1 8 0 1）孟春八日 含五段之習初図焉 木村央源政貞

1 0 9 図 3 3 田中端八真武繩（手彩）

1 1 0 図 3 4 天明元年丑（1 7 8 1）歲松宮左忠長俊所設地形也
文政十二年巳丑（1 8 2 9）正月十四日 田中端八真武初制（手彩）

5 『繩張図』

1 1 1 図 1 安政三年丙辰（1 8 5 6）十二月（以下欠）（図欠）

1 1 2 図 2 大藤小金吾光翼繩（手彩）

1 1 3 ~ 1 2 1 図 3 ~ 1 1（手彩）

6 『繩張図』

1 2 2 ~ 1 2 9 図 1 ~ 8

7 『繩張図』

1 3 0 ~ 1 6 5 図 1 ~ 3 6（手彩）

8 『繩張図』

1 6 6 図 1（手彩）

1 6 7 図 2 天明六丙午（1 7 8 6）正月初制図 横矢勢四象（手彩）

1 6 8 図 3 長俊松宮氏地形（手彩）

1 6 9 図 4（無地）

1 7 0 図 5 市川源六郎源克昌繩

1 7 1 図 6 克昌繩

1 7 2 図 7 於戲遯矣

北条房州栢陽先生之指館也距今一百五十年日月流萬逝者不還然感潛焉 痛恭惟先生德義嶽崇究韜略之淵源以弼軍政於 国朝繼而有師命俾為兵家伝統之宗師以行教テ天下是以威武權勢併隆 国籠殊渥美譽溢テ海内可謂不顯之德益喜之功也是以昔曜今光少無欠缺至今韜鈴之士苟高確正兵要義者咸無不沐其高德者所謂武德体明没而著者也絲絲瓜瓞蕃衍椒[聯]遺德其大矣哉当今幕府軍師

福嶋先生者 栢陽先生之裔也其称福嶋者 栢陽先生之同姓故也屯[纂]其家学不指名声[姿]乎純確乎操能誘能教[郎]業咸[熙]是以門生嘔喻而積其流慶仰受其教矣今茲巳卯（1 8 1 9）夏五月恭設忌齋渴尊肅之敬祭祀

栢陽先生之 高靈[巔]蕃行潦時薦匪鮮川越臣 定親 繼父之業亦幸私淑而與聞遣教是以忘固陋残拙力制城郭一凶襲敬以泰於

栢陽先生之靈牀不顧瀆 冥監之罪[聯]陳鄙誠以代尊饋云爾

1 7 3 図 8 文政二年巳卯（1 8 1 9）夏五月 原 弥五八定親稽首百拝

1 7 4 図 9 寛政十戌子（1 7 9 9）年春正月七日 五段之習及四象龍門制

1 7 5 図 1 0 寛政十二年庚申（1 8 0 1）陽月上澣三日奉值大塊先生初七之忌日而設一城謹而以

献其 尊靈前焉 設四象龍門図焉 木村央源政貞

1 7 6 図 1 1 天保二年（1 8 3 1）歲次辛卯正月四日因 易經図焉 田中端八橋真武初制

1 7 7 図 1 2 維持天保辛卯（1 8 3 1）春正月五日初制 佐々倉又八郎源正名

1 7 8 図 1 3 文政丁丑（1 8 1 7）秋八月二六日因地形制 井山数之助双柯

1 7 9 図 1 4 文政六年癸未（1 8 2 3）秋七月十有八日

甘繩故大先生福島源公三回忌辰也 川越藩臣井山數之助双柯稽首百拜

180 回 15 直恒公御繩

181 回 16 維時

天保二年（1831）歲舍辛卯秋七月二十有九日

南街先生小祥忌辰嗚呼哀哉 末弟子真武 追念往事慈愛恩惠矣蓋

先生志于聖學且能兵法焉以教授一藩士為任矣矣先輩不及于

先生之術者多有功於其道也不可勝言也 武也 受業於

先生之左右始二十年微志畫欲窮其道不肖愚鈍而慙不能入於門庭伏願

先生之靈令獎勵不肖以窮其道於是乎謹制紙回三員而供

靈前尚 饗 田中端八橋真武 稽首百拜

182 回 17 正德五年乙未（1714）正月二日

広瀬実常先生被 初制因于其本城俯而制 一城以奉備 井山了蔡先生靈前

183 回 18 是歲天保癸巳（1833）秋七月十有八日適值

甘繩先生之十三週忌嗚呼哀哉伏惟

先生卓以其家學鳴於天下久矣其為術也一以先聖王仁義之兵為主意與世之

兵學者流大有徑庭矣以故入門之徒遍乎四方轟々大盈于天下云及其沒也

高弟子教授四方者亦不為鮮矣吾藩厚齋井山先生亦其人也 真武 不肖遊

厚齋先生之門而私淑

先生之道十有餘年 真武 固雖至愚以孜孜汲汲不怠之故將矚僅其門庭似有得

其一二焉是亦

先生之恩惠也豈可不仰慕尊崇哉於是乎作城回三員而恭供于

先生靈前嗚呼

先生在天之靈尚饗 田中端八真武百拜稽首

184 回 19 其二

185 回 20 其三

186 回 21 維持天保四年癸巳（1833）孟秋中旬八日

兵家北條流正統福甘繩大先生十有三回忌辰也

嗚呼 愚哉 不肖在其流下而邂逅與聞其教是以今

茲 尊靈不顧 冥監之罪含五段之意而固陋拙

力之制一城郭以奉備 尊靈儿上聊加追福之端

川越藩臣 佐佐倉源正名 又八郎 稽首百拜

187 回 22 天保四年癸巳（1833）秋七月十八日

福甘繩大先生十三回忌辰也

謹而拙城制一回以奉備

尊靈前也 川越臣 佐々倉又八郎正名百拜

188 回 23 渡辺左次兵衛源孝

189 回 24 和田貢忠愛繩

190 回 25 和田貢忠愛繩

191 回 26 和田貢忠愛繩

192 回 27 天保四癸巳年（1833）七月十八日

甘繩故大先生福島源公十三回忌辰也因

謹畫一城回以奉備 尊靈位前云爾

川越藩士 大藤晋助藤原勝茲 稽首再拝

193図28 川越臣 安井與左衛門政章稽首百拝

194図29 天保四年(1833)秋七月十八日奉値

福甘繩大先生君十三回之忌辰而設一城

謹而以献於其 尊靈前焉

川越臣 木村央政貞稽首百拝

9 安政二年乙卯(1855)三月制之 栗間友道

195~199図1~5 (手彩)

10 『繩張図』

200図1 其一 201図2 其二 202図3 其七 203図4 其八

204図5 其十一 205図6 其十二 206図7 其十三 207図8 其十四

208図9 其十五 209図10 其十六 210図11 其十八

211図12 其十九

11 『繩張図』

212図1 七月十八日制其一 213図2 二 214図3 五 215図4 六

216図5 七 217図6 八 218図7 九 219図8 十 220図9 十一

221図10 十二 222図11 十五 223図12 十六 224図13 十七

225図14 十八 226図15 十九 227図16 廿 228図17 廿一

229図18 廿二 230図19 廿三 231図20 廿四 232図21 廿五

233図22 廿六 234図23 廿九 235図24 三十 236図25 卅一

237図26 三十二 238図27 卅三 239図28 卅四 240図29 卅五

241図30 卅六 242図31 卅七 243図32 卅八 244図33 卅九

245図34 四十 246図35 四十一 247図36 四十二

248図37 四十三 249図38 四十二 250図39 四十三

251図40 四十四 252図41 四十五 253図42 四十六

254図43 四十七 255図44 四十八 256図45 四十九

257~295図46~84 296図85 九[月]八日制之栗間友道 297図86

298図87 十月三日井口三司與改 299~323図88~102

324図103 丙寅(1806)仲夏四日 325図104 丙寅(1806)五月五日

326~330図105~109 331図110 丙丑春四月

332図111 甲子(1804)六月日 栗間友道

333図112 甲子(1804)六月日 栗間友道図焉

334~338図113~117 339図118 (朱校正)

12 『繩張図』

340図1 田中先生御繩 341図2 田中先生御繩

342図3 享和三癸亥(1803)年冬十月廿一日因地形 井山数之助双柯

343図4 文化七年庚午(1810)之歳夏五月十有九日因地形 井山数之助双柯

344図5 文政三年(1820)歳在庚辰夏五月 川越隠士 鳥羽為燮惟文

345~346図6~7 347図8 (朱校正)

以上、1~12組、347図

4・地図情報133号城と地図 5月販売 三春町と三春城

明治4年三春県絵図方測量 三春町と三春城一算術教授佐久間續 600余の野帳、測量絵図一

陸軍省城絵図の三春城は三春県絵図方の測量成果が明治政府に報告された証明になりました。国の事業と県の事業が見事に結びついた成果の報告です。

5・

新収集情報報告

掲載は入手順に入手後、翌日に記載しています。メモ代わりの備忘録ですので順不同です。

掲載分類は城郭図、城郭錦絵は城郭、群馬地図、資料は群馬、錦絵地図は錦絵、地図類は航空写真も地図、錦絵軍事、砲術、調練は軍事、後はタイトル通りです。

1・古絵図・古地図

上海市街図 昭和12年 陸地測量部 2万分1

1775年シベリア日本地図 銅版手彩色 27 x 33 cm 額入り44 x 50 cm

1635年マドリッド地図1960年複製 47 x 70 cm 額入り57 x 76 cm

新発田町 明治27年再版 測手陸軍歩兵少尉高木常之助 46 x 62 cm 2万分1

東京全図 明治25年 銅版色刷細密図 孝明天皇歴代江戸盛衰図・後水尾天皇寛永江戸図・正親町天皇江戸沿革図

岡谷市街全図 昭和11年 市勢要覧附図 35 x 46 cm

高野山真景大全図 明治44年 細密鳥瞰図 50 x 74 cm

東部支那図 昭和3年 陸地測量部 250万分1 105 x 158 cm

陸地測量部発行地図区域一覽図 昭和14年 陸地測量部 77 x 110 cm 朝鮮、樺太、台湾、満州、関東州、編纂図（20万帝国・50万輿地・100万萬国・100万東亞輿地）、特殊図（都市近郊図・山岳図・演習場図・時局参考図・総覧図）を含む大地図

地図文献・複製地図 絵図と地図に見る館林館林御城図館林御城下町図・真壁町史料町屋村絵図真壁陣屋周辺図・近世日本の世界像地図でみる変貌する世界・千島シベリア探検史・1643年アイヌ社会探訪記フリース船隊航海記録・東海道分間延絵図第1巻品川―第4巻箱根まで、絵図編解説編4箱8冊・

2・古文書古典籍

関ヶ原備考 第7巻三成佐和山蟄居・伏見御入城―30巻大尾 写本

厭蝕太平楽記 第2巻―30巻大尾29冊 写本 大坂軍記

今川了俊愚息仲秋制詞條々 今川状 35 x 430 cm 永享元年 1429年 一般に仲秋は弟と伝えるがここでは息子となっている。

3・印刷資料

印刷文明史 島屋政一 昭和55年 全5巻別巻計6冊 初版昭和9年頃 定価84000円 図版2600図に及ぶ大著

CREATIVE WORK SYSTEM 1981年 マール社 新撰篆書字典I・II・古代模様式図考・龜頭篆隸草行類撰I・II・江戸雛形壺・式・鳴海賀太・書法正解 9冊北斎等デザイン帳 各冊数百頁に及ぶ

飛び出す絵本 13冊 ニューヨーク製 3Dへの人類の憧れは、双眼写真、赤青レンズによる立体、レンチキュラーによる3D画像、立体テレビ、立体絵画、4D映画と特に近年は目覚ましい。鳥瞰図や航空機へのあこがれも3Dと言えようか、海外では童話等の絵本の原始的な、しかし、見事な立体絵本が飛び出す絵本として盛んにつくられてきた。一見壊れそうな危うい美、慎重にそと開けるワクワク感、3D芸術ここに極まれりである。印刷物である本、飛び出す絵本は細密な加工技術と言えようか。開けた時の驚き、閉じた時の不思議、見事としか言いようがない。折り紙技

術が盛んな日本の仕掛け本はなぜか見劣りして成らない。

4・錦絵・引札・双六・絵葉書・古写真

近江八景5枚 初代広重原版明治24年木版復刻 粟津晴嵐に膳所城

近江八景引札4枚続き8枚 木版色刷 19 x 21 cm

名作版画集平塚運一創作版画 日本芸術版画社 昭和26年 千鳥城天守閣等30図

錦絵文献 浮世絵体系木曾街道六十九次・東海道五十三次・名所江戸百景1・2 広重内田実・

鶏卵紙古写真 陸軍中将第1師団長男山地元治・陸軍大臣陸軍大将伯爵大山巖・陸軍少将大島久直・海軍大将子爵樺山資紀・枢密顧問官大鳥圭介・海軍中将伊東裕亨・陸軍中将三村幾太郎・陸軍歩兵大佐正六位勲三等福島安正・陸軍中将第三師団長桂太郎・伊藤総理大臣・有栖川・小松宮・北白川・閑院宮・後藤・井上伯爵・伏見宮・長谷川？・所蔵者明治三十三年陸軍歩兵伍長田中辰巳十九才・明治三十六、三十七年同・明治三十一年つた子

5・軍事資料・武器武具

楠公湊川碑 浪華松泉堂 和装本木版 明治19年

軍事文献 瀬戸内水軍・諸葛孔明の兵法・樺太終戦史・写真集朝鮮戦争・

兵器と技術 改題JPDI 1959年1月より2000年3月迄 日本兵器工業会・日本防衛装備工業会 兵器と技術120冊JPDI82冊計202冊 防衛省や軍需産業による技術雑誌

LAROUSSE UNIVERSEL A-K フランス語事典 彩色細密図、地図多数 飛行船・武器・大砲・自動車・飛行機・木目・騎士・キノコ・天球図・服飾・戦艦・勲章・動物・要塞・兵士等

INPERIAL JAPAN 1894-1945 1984年 香港

WORLD WAR 1939-45 1982年 ニューヨーク

6・城

甲斐国志古跡部第1-16巻揃 甲斐国志38-54巻 和装本 明治17年

影絵作家藤城清治作 城 950分316 透明感のある影絵作家藤城清治によるリトグラフである。高石垣の上に5層の天守、月と雁、透明感のある美しい作品 20 x 25 cm 額装32 x 39 cm

八江萩名所画集 明治25年 木版 全6冊と附録 萩城御本丸橋・御台所御門・東御門・堀内総門の図・明倫館・御城下入口大城戸の図・御客屋・御船蔵・唐樋札場・松本大橋・越ヶ浜・新明倫館全図・姥倉掘割之図等名所絵図多数

復刻郡上郷土史料 1992年 郷土史料巻に**積翠城二ノ御丸略図・御本丸略図・下御殿略図 忒に八幡城絵図文久・八幡城絵図宝暦八年 参に八幡山周辺鳥瞰図**等巻巻六件の資料が治められる。

城郭文献 地図中心特集徳川家康の城と東照宮・第12回全国城郭等石垣整備調査研究会資料集・記録集・福岡県の中近世城館跡Ⅱ筑前地域編2・徳川綱吉館林城主から将軍へ・上杉謙信がやってきた・館林の城下町と村・真壁の町並・唐沢山城と佐野氏・江戸時代の真壁・中世の真壁氏・浅野氏と真壁・古河城跡分布調査報告書1・佐野城跡を考える・房総城下町読本・写真で見る館林・江戸三〇〇藩最後の藩主・日本の城大名の生活と気風・館林藩を支えた領地播州三木・近世の館林城と大名・沼田城址南足柄市・沼田城址図集・中世城郭都市の形成歴博研究報告77・史跡真壁城跡Ⅰ-Ⅷ・真壁城跡老人ホーム建設事業に伴う埋文発掘調査報告・特別史跡安土城跡環境整備報告書Ⅱ大手道伝羽柴秀吉邸跡・発掘された山形城三の丸・蘇る新発田城・八王子城研究7・熊本城不開門坂道復元工事報告書・富樫館跡3・史跡福山城保存管理計画書・松本城及びその周辺整備計画・高尾城跡・松本城下町跡飯田町第1次発掘調査報告書・松本城三の丸跡大名町第1次緊急発掘調査報告書・史跡松本城二の丸土堀跡発掘調査報告書・松本城三の丸跡小柳町第2次発掘調査報告書・

鍬形原砦址 1 - 9 次 2 冊・桐原城址・松本城下町跡東町第 3 次発掘調査報告書・

城グッズ 日本の城シリーズ第 4 集切手弘前金沢姫路福山福岡城・皇居のしおり・皇居の門・宮殿殿外・殿内・皇居東御苑・

城絵葉書 栗林公園 1 2 枚袋・伊井掃部頭陣屋跡等 8 枚袋（三浦半島下浦の風景）・兼六公園 2 0 枚袋金沢城等・豊公遺跡大阪城公園 8 枚組袋・金沢名所三十二景内 2 9 枚・盛岡名勝 1 1 枚岩手公園二の丸と渡雲橋、岩手公園より盛岡市街の一部を望む、後三年役古戦場厨川の柵、岩手公園運動場・吉野の史跡 1 0 枚袋・大阪名所絵はがき 2 0 枚袋・

太田金山城・足利館・真壁城・小田城現地表示 2 0 1 7 年 4 月 1 日 - 1 2 日

1 0 年以上前に訪れた城跡は見事に整備されていました。金山城の精緻な石垣群は関東の城とは思えません。田んぼの中に土塁が点在していた小田城も見事な土塁に囲まれていました。足利学校と鑱阿寺は初めてです。見事な水濠に驚きです。真壁城は土塁と空堀が相変わらず、依然の面影を残し、壮観でしたが、本丸に体育館が建設されていたのは驚きでした。いずれの城址も盛んに調査がされていて、城址への検証と愛着が感じられました。





7・群馬郷土資料

第二十七回前橋市統計書 前橋市略図 31 x 42 cm 昭和9年

高崎連隊区将校団規約 大正13年改正 16頁

太田市史 通史編近世・通史編民俗上・史料編近世1-3・資料編近現代平成4年

群馬雑誌 上州路安中板鼻等5冊・上毛及上毛人記事索引・群馬文化200号・群馬風土記5冊

絵葉書 伊香保と榛名6枚袋

8・資料

甲斐国志 第1-30巻第3巻欠 明治17年

アイヌ聖典全 アイヌ語辞典 昭和5年 322頁

長野県歴史大年表 上下2冊 昭和62年

あとがき

久しぶりに城跡を1日見て歩きました。数年前は伊那の展示会で高遠城の城壁を昇降し、随分歩き回っていましたが、3年を経過して、太田金山城の防壁のすごさに感激、以前の整備前の印象とは大きく異なり、誰が見ても分かるように適切な表示がされていました。精神的な躍動感と反比例して、体力の減退を思い過させました。まるで、富士登山をした時のような疲労感です。小田城も驚きでした。古い絵葉書もありますが(戦前絵葉書に見る中世城郭織豊城郭の景観に収載)前回は田んぼの中に土塁が点在するイメージでした。今回は土塁と堀の囲まれた巨大な方形館跡と郭群が復元されていました。

ドローンが話題になっています。上空からの城跡遺構の撮影どれだけ憧れたことでしょうか。3Dへの夢と希望は尽きることがありません。

高田さんと石川さんが西尾で城グッズ展を開催されています。こちらも思いますが、古絵図と違い、立体物で割れ物は準備が大変で開催意欲がなえます。関心のある方は西尾城展ともども、ぜひ、見てきてください。当文庫に来場された方は城グッズの世界を満喫していただけます。

発行所

しろはく古地図と城の博物館 富原文庫

379-0109

群馬県安中市秋間みのりが丘5-73

090-2722-4689(しろはく)

FAX027-315-4689(しろはく)

shirohaku@kym.biglobe.ne.jp

ミュージアムショップ

古地図と城 古書肆 城郭文庫

代表

富原道晴